

陸前高田市議会会派

新星会

発行・編集
陸前高田市議会会派
新星会

平成21年3月

第5号

発行責任者

福田利喜

陸前高田市小友町字谷地館21

TEL 0192-56-2166



新規就農者として、イチゴ栽培を手がける辻さん（夏秋イチゴ苗の養生作業）

百年に一度とか、未曾有という形容詞が、新聞をはじめマスコミで使われている。良い意味で使われるのなら大変嬉しいのだけれど、その次に続く言葉は「不況」、「不景気」である。

昨年の十一月にリーマンブラザースが立ちかなくなったとき、現在の財政金融担当大臣は、ほとんど影響がないと街頭演説で話されたのを記憶している。

それが、ここまでになった。様々な要因があると思うが、一日でも早い出口を見つけ出さなければならぬ。

そんな北風が厳しい中、春を見つけてきた。北海道出身の新規就農者が頑張っている。

小友町に農地を借り、ハウスイチゴを栽培している。頼もしい限りだ。

地域で応援し、素晴らしい農家に、そして産業に育てたいと思う。

平成20年度を振り返って

べきか。



福田 三月定例会も終わりました。皆さんご苦労様でした。本日は、この一年を振り返りながら、百年に一度の未曾有の経済危機といわれている現在、陸前高田市はどうあるべきかを中心にお話を伺いたいと思います。

最初に、この一年を振り返って大きな市政のポイントとなるものについて伺います。清水さん、いかがですか。市議二年目にして、大きな市政課題に直面したわけですが。

清水 市民有志の方々から出



された、合併法定協議会の設置請求ですよね。私は、別な組織ですが合併の実務に携わった経験から、合併が持つ可能性というものを高く評価しておりました。また、あわせて合併がもたらす歪みについても理解しているつもりです。

その、自分が経験してきたこと、現在の陸前高田市を取り巻く環境を考えると、ひとつの選択肢として合併もあるのではないかなど考えたところです。全てを披瀝しあつて、合わせることにより大きな力を発揮できるもの、合併することにより手が届かなくなるものなどを検証し、まちづくりを行う大きな機会だったと思います。市議会議員二年目にして、大きな判断を下し、そしてその判断をするために様々な勉強したことは、私の議員として大きな財産になったと思います。

福田 そうですね。私どもの会派は、「合併ありき」ではなく、清水さんがお話になら



れたように、「タブーをなくして議論をしましょう」との考えを基に、様々な勉強をしてきました。岩手県市町村課の戸館課長さんを講師に勉強会もしましたし、盛岡市で開催された、全国自治体交流大会や自治体学会等へも参加し、制度の勉強だけでなく、全国の生の声も聞いてきたところです。

また、その結果として、市民の皆さんの声を聞く会を設けよう。自分たちから市民の皆さんと積極的に話をする機会を持つとうの考えで、他会派の議員のみならずと議員有志の会を立ち上げ、「市民の皆さんと一緒に考える会」を市内十一会場で開催させていただきました。多くの市民の方々に参

いまこそ議会は どうある



加して頂き、成果があったと思いますが、参加した感想を佐藤さんにお伺いします。

大変厳しい声もいただきましたが、有意義でした。

佐藤 大分、手厳しい声も頂きました。でも、やって良かったとの思いが一番ですね。

我々の考えを、市内十一地区を全て回って話を聞いていただいた。制度とともに、陸前高田市の現状を説明し、どう進んだらいいかを胸襟を開いて市民の民さんとお話することができたと思います。やり取りの中で、一方的な説明かと思ったら、色々な角度で話をしてくれてわかりやすかった。とか、

そんなことまで説明して、あなたたちに不利にならないのかなどの声も頂きました。このような機会を継続して行ってくれとの声がありました。が、私たち市議会議員は、自分の後援会や地域で話をするだけでなく、市内各地で、市民の皆さんと意見交換をし、市政課題について話し合うことがとても大事であると再認識した会でした。

私としては、今後も、この活動を会派として続けてゆきたいと考えています。

福田 大変貴重な機会でしたね。会派として今後の一番の事業としたいと思います。そのためには、私たち議員も一層の勉強をしなければ有意義な会とはならないと思いますので、頑張りましょう。

今、議会では西條議長のもと議会改革を進めています。その中心となったのが、小松さんを会長として構成された「議会諸課題検討委員会」でした。議会の改革が叫ばれて、



各地では様々な取り組みがなされています。本市の検討について、小松さんからお話いただけますでしょうか。

地方分権によって、新しい議会が求められているのでは。

小松 各会派からと、無会派の方も入って頂き構成された、議会諸課題検討委員会でした。西條議長から議会活性化のための方向性をとのことでした。また、議会は市民から直接選ばれる二元代表制の一翼であること。チェック機関から、提案型議会への変革が求められていることなど、議会全般について検討を重ねました。現在の議員定数から、委員会のあ



岩手公共政策フォーラムにて

り方、議員個々の活動のあり方まで検討を行ってきました。ひとつの方向性として、議会のあるべき姿、求められる議員のあり方などから、議会としての規範、議員としての行動指針を取りまとめた形の議会基本条例が必要ではないかとなり、議長に対し答申をし、現在議会運営委員会において具体的な策定に向けた作業が行われています。

会派の皆さんには、議会基本条例を理解して頂くため、岩手県立大学公共政策学部主催のフォーラムにも出席頂き、勉強して頂いたところで。私は、議会のあり方、議員の姿というものは絶えず

変化すべきと考えていますが、ひとつの方向性というか指針が必要ではないかと考えています。平成十一年の地方分権一括法により、地方自治法をはじめ様々な法律や制度が変わりました。国・県・市町村の関係も、縦の上下の関係から、横の同列の関係へと変わりました。私たち議員がこのことをよく理解して、議員活動・議会活動を行うことが大切であるということとを認識する必要があると考えています。

福田 小松さんが話された、議会・議員に求められる姿が大きく変わってきている。地方分権の推進により、地方自治体のあり方も変わってきている。このことを、我々議員がきちんと理解し行動することが大切だと私も感じております。前議長として、陸前高田市議会をリードされてきた小松さんには今後とも私たちを引っ張って頂きたいと思えます。よろしくお願いたします。

小松 議員の数は二十人です。市職員は三百人です。そして、市民は二万五千人です。どうしたら、

陸前高田市が良くなるか、市民の生活が向上するかを提言・提案するためには、一人ひとりが、その力をもっと発揮できるような勉強が必要だと思えます。

新星会の仲間は、みんな責任感と向学心が強いので、わたしもそのひとりとして負けないように頑張ります。

福田 西條さんにお伺いします。議長として重責を果たされているわけですが、議長としての立場と、議員としての立場を問われる場面が多く大変だったのではないかと思います。

議会は議論の場であるとの考え方を前面に出され、様々な議論を喚起されていたように感じた一年でしたがいかがでしょう。

西條 議長二年目も、皆さんのご協力で乗り切ることが出来ました。ありがとうございます。この一年は、陸前高田市を左右する合併協議会の件など大きな判断を下す内容のものがあったと思えます。私は、議論を徹底的に尽くす。そして、それが市民の皆さんにわかるようにしたいと考えて議会運



市民の皆さんと一緒に考える会

営を行ってきたつもりです。結果も大切ですが、結果が出る過程の議論の中に大切なものがあるとも考えています。

議会は、誰のものでもありません。陸前高田市が発展するためには、どう議論し、どのように議会が機能しなければならぬかを考えてゆきたいと思っています。

福田 ありがとうございます。四人の皆さんのお話を聞いていて、この新星会には「議会は誰のものでもない。市民生活が豊かになる市政運営を行うために、市民にとって何が最善かを常に考えて行動する。」との大きな理念があると感じました。第二部では、陸前高田市の向かうべき方向について伺いたいと思えます。

全国自治体政策交流会議

自治体学会岩手・盛岡大会

八月二十一日、二十二日の両日にわたり、盛岡市で第二十五回全国自治体政策交流会議と第二十二回自治体学会岩手・盛岡大会が開催されました。

新星会では、かねてから自治体学会への参加をおし、全国の様々なまちづくりの研究に取り組んできました。本年は、盛岡市が会場となったことから、全員が参加し、それぞれ分科会に別れ研修をしたところです。

初日は、全国自治体政策交流会



議が開催され、達増岩手県知事の

基調講演、午後からはパネルディスカッション「分権時代における地方の自立」が開催され、早稲田大学の北川教授や、遠野市の本田市長がパネリストとして様々な事例を紹介されました。夕方からは、参加者の交流会が開催され、全国各地から参加された自治体職員や地方議員、大学の研究者の皆さんと意見交換をしたところです。

二日目は、自治体学会が開催され、「生活者起点に立った内発的まちづくりの可能性を探る」を

新志会と合同で

合併新法と制度を学ぶ

新志会との共催で、市町村合併特例法の勉強会を開催しました。

キャピタルホテルを会場に、岩手県地域振興部市町村課の戸館市町村合併担当課長を講師に向かえ、市町村合併と二十二年三月に期限が切れる合併新法について市町村

テーマにセミナーが開かれ、八つの分科会が開かれました。新星会のメンバーは、農と食を通して考える持続可能な地域社会循環社会の仕組みづくり、合併と自治の今とこれから、合併は自治を高めたか、地方分権における議員の役割、議論する議会、提案する議会、市民と行政の協働型評価、市民の参加の新たなツールを指しての分科会に分かれて出席しました。

大変有意義な二日間となりました。この二日間の大会に、新星会の福田利喜議員が地元運営委員として大会の運営にあたり、自治体学会の総会では議長を務めたところです。

合併の制度、合併新法の中身、国や県が進めている具体策についての勉強会となりました。

新星会と新志会の議員十名と、県市町村課、大船渡地方振興局の職員も参加して頂き、意見交換やこれまでの気仙地区での取り組み



について詳しく説明を受けたところです。

戸館課長からは、制度の一般的な内容だけでなく、これからの市町村経営のあり方、自主財源が乏しい自治体の今後など、具体的な事例を挙げて説明頂いたところです。

市町村のあり方については、「当面・・・」とか、「出来るだけ・・・」はない。行政は現状と今後の見込みをきちんと分析し、住民に説明を行い、住民はどうあるべきか、市民サービスの範囲や、今後の自分たちの負担をきちんと理解し、今後のまちの進むべき方向を決めるべきであると。

単独市を選択した陸前高田市です。今こそ、まちづくりについて一緒に議論しましょう。

第二部

今後、どのような

まちづくりが必要か

福田 前半では、一年間を振り返ってみましたが、後半は単独市を選択した陸前高田市がどうあるべきかについて伺いたいと思います。

行政・産業団体・生産者を一本にした取り組みが必要

清水 「当面、単独市」と中里市長は話されますが、「当面」ではなく「責任を持った単独市」が求められます。「行けるとこまではこのままで」ということは出来ないと考えています。



有数の生産量・生産額を誇る三陸わかめ

結果として出されたことですから、今後は生活できるまちづくりが求められると思います。

新星会の研修で、福島県の伊達市と宮城県登米市を視察させていただきましたが、両市とも合併によって出来た市でしたが、合併効果を前面に出したまちづくりを行っていました。特に、登米市は農業のまちづくりを積極的にすすめていて、市の担当者が農業を応援する様々なプログラムを携え、市民のところへ飛びこんでいるなど、農業を産業として、そして加工・流通へつなげる施策を積極的に進めていました。市内には、「目指せ農業出荷額三百億円、一日一億円の出荷をしよう。」との大きな看板が掲げられ、その意気込みが感じられました。

本市にも、ワカメ、カキなど、他の地域に負けない水産資源があります。品質・市場シェアなど、十分競争できる水産業の一層の振興をはじめ、一次産業の振興には、行政・産業団体・生産者を

一本にした取り組みが必要と感じたところです。

その、一本にする力が行政に求められていると考えています。

福田 佐藤さんは、この間、一次産業に従事されてきました。その経験を生かして様々な提言をされていますが。

総合営農指導センターの活用を

佐藤 特に、農業分野ですね。本市には、総合営農指導センターという大変すぐれた施設があります。これを生かさない手はないと考えています。特に、新規就農者の養成施設として成果を上げておりますが、関係機関や団体にも出向の形で参加していただき、総合的な業務をこの施設に持たせることが、本市の農業を産業に押し上げる力になると思います。

また、新規就農者を確保するとの観点もありますが、空き農地や空き屋情報を総合的に管理し、インターネットをはじめ様々な情報発信をし、Ｉターンや団塊の世代の退職後の人々を呼び込むような施策も重要と考えます。

福田 そうですね。少子高齢化



産地化をめざすイチゴ栽培

が急速に進む本市においては、少しでも多くの人がこのまちに住んでもらえることが大切ですね。

新星会では、地場産業の育成とともに就労の場の確保も大きなテーマとして取り組んできました。やはり、農林水産業だけでは就労環境は整わないと思いますがいかがでしょうか。

雇用の場の確保が最大の市政課題

小松 そうですね。やはり、企業誘致が大きなテーマになると思います。一月五日の新年交賀会のあいさつで、中里市長は企業誘致に頼ってこなかったから失業者が

少なかったと市民に印象を与えましたが、この地域には働く場がないから今回の経済危機でも失業者が少なかったのではないのかと感じます。成人式のアンケートにもあるように、多くの若者が陸前高田に働く場を求めています。いかにして、雇用の場を確保することが出来るかが最大の市政課題だと考えます。

福田 私も同じ考えですね。農業や漁業、林業に就業するにはそれなりの環境が必要となりますが、企業への就職となると多くの人にチャンスがあると思います。そのためには、市として目先の利益を考えるのではなく、投資の考え方が必要になってくると思います。市有地を無償で貸しても、働く場ができる。ここに人が住むことが増える。そして、企業からは固定資産税が入ると考えたほうがいいのではと考えています。なかなか、難しいのですが、「市としてこのような考えがあります。みなさんどうでしょう。」と、市民に向け議論を喚起することが、情報発信にもつながると思います。是非、この点を市議会でもまた取り上げたいと思います。

企業があることは有利

西條 ここ二年間、全国や東北そして県内の市議会議長会の会議へ出席することが多く、色々な市の議長さんと話をする機会が多いのですが、都市間競争といわれているとおり様々な形で、地域力、それも経済力をどう付けるか様々な努力をしていますね。

企業の城下町であるとその企業の業績によって、町の経済や財政が大きく変わるなどの弊害的な要素もありますが、やはり企業があることは、まちづくりにとつて大きな強みであると感じています。本市も企業誘致に戦略を立ててあたるべきだと考えます。

福田 今の経済情勢からすると、企業の新規設備投資は非常に厳しいものがることも現実ですが、西條さんのおっしゃるように、きちんとして戦略を持って企業誘致や、一次産業の振興にしてもあたるべきだと私も感じています。今後、様々な議員活動をおして、市民が何を求めているのかをつかみながら、陸前高田市の市民生活の向上に向け頑張ります。

地域職業相談室、

地域交通事業等を研修

二月三日と四日の二日間、新星会の平成二十年度特定課題研修として、福島県伊達市と宮城県登米市を訪問しました。福島県伊達市は、地域職業紹介室について。宮城県登米市は、ワンコインバス（市民バス）事業とビジネスチャンス支援事業についてを、勉強させて頂きました。

ハローワークが無い市でも、それに代わった業務を行う仕組みを行っている伊達市を先進事例として訪れました。

伊達市地域職業相談室として運営されており、雇用保険や求人手続き等は行えませんが、求職情報の紹介を主にやっており、多くの方が利用されていました。運営主体はハローワーク福島で、相談員二名と受付等を行う嘱託員一名の三名体制で業務を行っています。

伊達市は、地域職業相談室の建物を提供し、ハローワークと市との運営役割分担を行っておりました。また、市役所及び各支所の入口付近に、毎日更新される求人情報を掲示し、必要な方はすぐに脇のコピー機を使って情報を手にすることが出来るシステムもあわせて行っておりました。毎日、担当課とハローワークとの間で情報の交換をしているとのことでした。

登米市では、合併により地域が広がったことやバス運行に多くの補助金を出していたことから、総合的な公共交通機関のあり方を検討し、路線・運行時間を見直して、市が直接運行に係わるどこまで乗っても百円という、ワンコインバスをバス会社に委託して行っていました。小学生以下は無料、高校生の部活動や通学、病院への通院に配慮されたシステムになっていました。

また、農業を主産業ととらえ、生産するだけから、加工・流通まで複合的な事業にしようと、市独自の補助制度の充実を図り産業振興に努めておりました。この、施策の積極的な活用を図るため、担当課の職員が地域や、利用を検討している事業者・農家まで出向き、説明やその後の相談にのるなど積極的な行政の係わりがあると感じたところです。

この研修の成果は、早速三月定例会で一般質問や、予算等の質疑にかすことが出来ました。



学校給食費値上げに、

三月定例会 見直し修正案提出

平成二十一年度一般会計予算案に修正案を提出しました。福田利喜議員と新志会の菅野広紀議員が共同で、学校給食費徴収金の見直しを求める修正動議を予算等特別委員会（佐藤信一委員長）へ提出しましたが、賛成少数で否決されました。

と当時が異なっていること。十一月のリーマンブラザースショック以来、景気低迷が激しく、小中学生を持つ世帯にとっては大変厳しい経済状況が見込めることから、もう一度見直しを行うべきであるとして、給食費の現状維持を求めて予算案の修正動議を提出しました。

これは、四月から給食原材料の値上がりにより、学校給食費を値上げするとの当局提案に対して、値上げが検討されたのが昨年十月時点であり、現在の物価動向

質疑が行われ、給食原料費は父母の負担が原則であることや、学校給食運営委員会で決めたことであるので当局提案どおりすべきではないかとの質問もいただきました。

結果として、新星会・新志会の議員が賛成しましたが、賛成少数となりました。

今後とも、市民にとってどう影響するか、市の今後についてどうあるべきかを着眼点として、市民生活と行政の役割について様々な議論と提案をおこなってまいります。



清水幸男
事務局長
産業建設常任委員会副委員長

佐藤信一
幹事長
教育民生常任委員会委員長

小松 眞
顧問
総務常任委員

福田利喜
会派代表
議会運営委員会委員長

西條 廣
顧問
議長